

●●●インクルファンドで助成しました●●●

しながわ子ども食堂ふたば（品川区）



昨年10月から「コミュニティカフェとらびっと」の店舗を借りて毎月1回の活動を開始。立ち上げ時のメンバー4人に新たに5人のボランティアが加わり、9人で運営しています。立ち上げメンバーの小野幸子さん（写真）にお話を伺いました。

地域の力を合わせて子どもの育ちを支える

パウンドケーキやクッキーを差し入れてくれるご近所さん、体験農園で収穫したお米を届けてくれる人、チラシを置いたりアイスを差し入れてくれたりと協力的なお隣のスーパーの店長さんなど、地域の人たちが様々な形で活動を応援してくれています。

品川区の社会福祉協議会も子ども食堂のネットワークづくりを始めており、ボランティア募集や提供された食品の分配等も始めています。社協のニュースを見

てふたばのボランティアに参加している人もいます。

子どもの頼れる居場所に！

1年間の活動を通じて平均28の方がここを訪れています。しかし、本当に支援が必要な子どもに情報が届いているのか疑問もあるとのこと。学校にも働きかけましたが、移動中の事故などを考えると学校ではチラシ等は置けないという残念な対応だったそうです。しかし、あきらめずに食事の提供を切り口にしながら、地域の中に自分を受け入れてくれる大人や居場所があることを継続して知らせていくことが大事です。

訪れた方のアンケートに「赤ちゃんが泣くと上の子が一人で食べなくてはいけないこともあるので、お相手していただいて助かった」とあり、経済的に困窮している家庭の子どもの支援に止まらない、広い意味での子育て支援の場にもなっています。

インクルーシブ事業連合事務局 平岡晴子



おじいちゃんと一緒に



しながわ子ども食堂ふたば
 日時：毎月第一水曜日 午後5時～8時
 料金：子ども100円・おとな300円
 場所：コミュニティカフェとらびっと
 （品川区二葉4-9-13）

サポーター募集中！あなたの1日10円で、つながり・支えあう豊かな地域社会をつくらう！

サポーターとは『地域ごとに必要な機能をつくり、市民が参加し利用するまちづくり型福祉』を推進し、豊かな地域社会づくりにつなげるために、インクルーシブ事業連合の運営および助成の財源を寄付で支える、個人または団体のことです。

＜会費＞ 個人3,600円/年 団体10,000円/年

※生活クラブ組合員の場合、登録制で300円/月を共同購入代金と一緒に引き落とすことができます。（登録後は、中止のお申し出がない限り継続されます。中止したいときは下記にご連絡ください。）

★サポーターになるには、下記の登録申込書をファックスまたは郵送していただくか、ホームページのお申し込みフォームからご登録ください。URL <http://inclusive-gr.com/>

郵送先：〒156-0051 世田谷区宮坂3-13-13 3F「生活クラブ・東京」内 インクルーシブ事業連合
 ファックス：03-5426-5203 電話：03-5426-5207

お名前			
ご住所	〒		
電話番号	メールアドレス		
所属	・生活クラブ生協（組合員コード： ）・助成を受けた団体（ ） ・運動グループ（団体名： ）会員、メンバー ・その他（ ）		
申し込み口数	個人（ ）口	・・・1口	3,600円/年
	団体（ ）口	・・・1口	10,000円/年

*ご記入いただいた個人情報は、インクルーシブ事業連合のサポーター登録およびお知らせの送付に限り使わせていただきます。

つながって実現！ 市民主体のまちづくり型福祉

インクルーシブ通信

2017年12月
Vol. 22



発行：生活クラブ運動グループ・インクルーシブ事業連合 発行責任者：土谷雅美 <http://inclusive-gr.com>

〒156-0051 東京都世田谷区宮坂3-13-13 生活クラブ・東京内 TEL 03 (5426) 5207 FAX 03 (5426) 5203

インクルーシブ事業連合 2017 福祉ツアー報告 団地を一つの大きな家族に

ぐるんとびー駒寄（藤沢市）

日本で初めてUR団地の一室で「訪問」「通い」「宿泊」を組み合わせ、自宅での暮らしをサポートする小規模多機能型居宅介護を2015年に開設。代表取締役で理学療法士の菅原健介さんにお話を伺いました。

東京においても高島平や多摩ニュータウン等の昭和30年代～40年代に入居が始まった団地では、従来の住宅地よりも一気に進む高齢化への対応が課題となっています。その団地の中で暮らしながら、未来へのまちづくりを見据えた事業や活動を展開されているのが「ぐるんとびー」の菅原さんです。この事業を始めたきっかけは、困っている人がいれば手を貸すのがあたりまえというデンマークでの暮らしの経験や、東日本大震災での支援活動を通じて、日常の困りごとを何でも相談できる場の必要性を感じたことから。



現在、利用登録者は29名。スタッフは看護師11名、理学療法士3名、作業療法士2名を含む常勤11名、非

3LDK（93㎡）の居室を200万円かけて改修。しかし、このように居室以外の用途に使うことは様々なハードルがあるため難しく、2年経ってもこのような事例は広がっていないとのこと。（前列右が菅原さん）

常勤21名の体制で、シングルマザーをはじめ、子育て中のお母さんも活躍中。また、空室を借りてシェアームにし、利用者2名とスタッフが暮らしています。

好きな事へのつながりを取り戻すことで人は元気になると菅原さん。生活が不自由になったことで、諦めていた「好きなこと」を、できるようにサポートする。「死んでもいいから好きな事をしたい！人がやりたいことを止めるのが医療なのか！」と訴える末期がんの男性がプールで泳ぎたいという願いをかなえるために奔走。思いを実現し、プール仲間に声をかけられ、その方の目は輝いていたそうです。要介護3の女性は「宝塚を見に行きたい」と1年ほどプール通いを続け、元気になって歩けるように。40%の方の要介護度が改善されているそうです。

「ぐるんとびー駒寄」には、子どもたちもやって来て様々な企画も行われています。子どももおとなも高齢者も障がい者も、互いにそれぞれの弱みと強みを理解し、助け合い、学び合う。そんな地域の拠点づくりが、超高齢社会をみんなで乗り切る道につながるのではないのでしょうか。

インクルーシブ事業連合事務局 平岡晴子

就労に困難を抱える人と「ともに働く」事業所指定寄付 ご協力をよろしくお願いいたします

- 応援したい事業所を選び、1口500円から何口でも寄付できます。生活クラブの組合員は共同購入代金と一緒に引き落とすことができます。
- 寄付はインクルーシブ事業連合を通じて各事業所に振込まれます。
- 寄付募集の締め切りは2018年1月31日です。
- 問い合わせ：03-5426-5207 担当：平岡・稲宮
 メール：info@inclusive-gr.com

寄付を募集している団体

- ① 環境まちづくりNPO エコメッセ
 都内15ヶ所のリユースショップでともに働く場を広げていきます。
- ② NPO 法人こすもす
 カフェ・こすもすでともに働く仲間を増やします。

【インクルーシブ事業連合構成団体】生活クラブ生協・東京/NPO法人アビリティクラブたすけあい（ACT）/社会福祉法人悠遊東京ワークス・コレクティブ協同組合/東京・生活者ネットワーク/東京CPB（コミュニティパワーバンク）認定NPO法人市民シンクタンクひとまち社/認定NPO法人まちぼっと/環境まちづくりNPOエコメッセ

10/28 (土) に「人とまちづくりフォーラム」を第一部に特別養護老人ホーム「芦花ホーム」医師石飛幸三先生の「平穏死」の講演、第2部に「安心して在宅生活をおくるための条件とは」をテーマにパネルディスカッションの構成で開催しました。当日はあいにくの雨模様でしたが90名の参加がありました。



石飛先生は40年あまり外科の医師として働いていました。その頃は手を尽くしても残念ながら「死」という結果を迎えた時、無念の思いでいっぱいとなり「自分は負けたのだ…」という怒りやむなしさを感じていました。その先生が自分の人生の終わりを感してきた時に医療の持つ意味を見つめ直す意味を強く感じ、芦花ホームの常勤医に転身。看取り医療を始めてから、初めて「死」とは必ずしも敗北の結果ではなく、自然な死というものには決してマイナスイメージのものではないということを感じることができるようになったそうです。

「人は死が近づくと、木が枯れるように、何日か前から潮が引いていくような様子が見られる。あまり食べたり、飲んだりしなくなったり、眠っている時間が多くなり始める。永い眠りにつくために、本能的によけいな物を整理して、身を軽くしようと準備する。家族からは不安に思う余り『もっとカロリーを入れないと衰弱してしまいます』『もっと水分を補給してください』と言われることがよくあるが、本当に苦しませたくないのなら、本人の身体が受け付ける以上のものを無理やり摂取させないようにする。そうすると「自然死」を迎えることができる。」

「終末期の高齢者は自然で安らかな死に向かわせてあげるべき、これからも強く『平穏死』を提言していくつもり」という先生の話に共感しました。

また「介護する人は心を支える支援を大切にしたい」とも話され、芦花ホームで実際にあった看取りの場面と職員との温かい交流のエピソードには、会場のあちこちで涙ぐむ人の姿が見受けられました。



また、第2部は「安心して在宅生活を送るための条件とは」をテーマに ACT 初代理事長の石毛鉄子さんの進行で利用者家族2名、訪問

看護師、介護福祉士、ケアマネジャーが登壇し、それぞれの立場で「在宅での介護」についての話をいただきました。その話の中で、世の中にいろいろな情報がある中、その人にとって必要な情報をどのように得ることができたかで、その後の「介護」の様子が変わってくる。また、介護者が一人で抱え込まないように、その人が「どのように生きたいか」を支援できるチームを利用者、その家族、及び、医療と介護の他職種のサービス事業者が連携して「安心して在宅生活を送ることができる」環境をつくる必要があるという意見で一致しました。

今後、今まで以上に「介護についてどこに相談するか」その糸口を身近に作ることを私たち人とまちづくりに課せられた課題と言えると今回のフォーラムで強く感じました。

NPO・ACT 人とまちづくり 副理事長 小宮淳子

●3keysとは、きっかけ・きずな・きぼう



子育て支援委員会恒例の子育て支援フォーラムは、初めて「草の根市民基金・ぐらん」との共催で開催。53名の参加がありました。今年も「子どもの貧困」をテーマとし、ぐらんの助成により、いち早く学習支援などに取り組んできた認定NPO 法人3keys (スリーキーズ) 代表理事・森山誉恵さんを講師にお迎えしました。

当時大学生だった森山さんは所期の目的に沿い、虐待や貧困などで頼れる大人が少ない子どもたちへの①学習支援事業②子どもの権利保障推進事業(相談・総合支援)③啓発活動事業に取り組まれています。

虐待の発生数は15年間で年10万件以上増え、16年度は12万件を超えましたが、保護される数は横ばい。経済的・精神的・社会的など、貧困の要素が2つ以上重なることで起きやすく、保護された子どもたちは、衣食住と安全は確保されますが、勉強の遅れを取り戻すほどのサポートまでは望めません。しかし、自立に向けて最も求められるのが学力。そこで、東京・横浜の約20施設と連携し、年間150人ほどを個別指導。自己肯定感や学習意欲の向上につながっています。そのためのボランティア研修も実施し、リタイアした男性も活躍していますが「実はトラブルはこの世代との間で起きる。怒って終わってしまうから」と苦笑い。

月に約1万人の中高生が利用する「オンライン相談

Mex (ミークス)」には官民150の支援内容を掲載。「親きらい」「死にたい」「妊娠したかも」などと検索した場合、このサイトが表示される今日的なサービスも3keysの特長です。「虐待・孤立などには、匿名性・専門性の高い、地域を超えた支援が有効」とのことでした。

●3団体からの支援活動報告

<NPO 法人アピユイ> 武内典恵さん(写真左) 多摩エリアで児童発達支援・放課後等デイサービス、保護者の会、発達相談、子ども宿題カフェを実施。どんな状態の子どもにも学びを保障し、保護者を孤立させないことがモットーです。*ぐらん助成団体

<小平子ども食堂まるちゃんカフェ>岩本博子さん カフェ、個人宅、公民館で実施。主任児童委員や学校関係者との連携で、支援が必要な子どもにつなぐと同時に、一緒に食べることで声をかけ合える関係性が生まれることを期待しています。

<NPO 法人ワーカーズ風ぐるま>織田由美子さん(右) 国分寺市の育児支援家庭訪問、ひとり親家庭ホームヘルプサービス事業を受託。宿題ひろばもスタート。「こころの貧困・孤立」にならないよう、ひとり親に寄り添う支援を行っています。



インクルーシブ事業 連合事務局 稲宮須美

インフォメーション



2017年度ACT市民後見人養成 基礎講座

日時: 2018年3月3日(土) ①10:00~12:00 ②13:00~15:00
3月17日(土) ③10:00~12:00 ④13:00~15:00

- ① 成年後見制度の概要・基礎 ② 対象者への理解と対応
- ③ 後見申し立てから後見等開始までの流れ ④ 後見人の職務・実務

受講料: 1講座3,000円 全講座受講者=9,000円 (ACT会員6,000円)

会場: ACT会議室 中野区本町1-13-18大新NSビル2F

主催・問い合わせ先: NPO法人アピリティクラブたすけあい 電話: 03-5302-0393 <http://npact.org/>

◎判断力が低下しても、その人らしく暮らすお手伝いをするのが市民後見人です。市民後見人に必要な知識を身につけましょう。

第2回地域防災訓練 in 悠遊

日時: 2018年3月4日(日) 10:00~12:30

悠遊安心支援システムの一環として、防災力を強化し、地域の安心・安全に貢献することを目的に訓練を行います。参加希望者は下記までご連絡ください。

主催・問い合わせ先: 社会福祉法人悠遊

西東京市泉町3-15-28 電話: 042-424-8106(代表) FAX: 042-425-2662



昨年の訓練の様子

市民版地域福祉計画づくり@中野&にしたま

悠遊による区有地活用をきっかけに

~中野地域協議会

中野では「市民版地域福祉計画」策定に向け、9月から活動を始めています。まず、市民による計画づくりのプロセスを確認。日常的に実施しているひとこと提案などをベースに、10月には「地域包括ケア」について中野区にヒアリングも行いました。

計画づくりのきっかけとなったのは、中野区江古田の区有地活用の運営事業者に社会福祉法人悠遊が選定されたこと。小規模多機能型居宅介護や認知症グループホームに加え、24時間365日の訪問看護・介護に、東京の運動グループとして初めて中野区で参入、2019年2月に開設予定です。

地域協議会では長期方針に基づき、さらに市民のニーズに沿ったサービスを実現すべく討議を重ね、来年秋の計画策定をめざしています。

私たちが描く、まちの未来図

~にしたま(福生、羽村、瑞穂)地域協議会

私たちが住みつづきたい、暮らしやすい社会を思い描き、私たちの住むにしたまが「こんなまちだったらいいな~」、「こんなふうになれば暮らしやすいのに…」と、まちで活動するコミュニティリーダーやまちの福祉に関わっている方が集まって、まちの未来図を自由に出し合って思いを共有し、まずははじめの一步を踏み出しました。

